

平成 20 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 新学術領域研究(課題提案型) 4. 研究期間 平成 20 年度 ~ 平成 22 年度
5. 課題番号 2 0 2 0 0 0 4 3
6. 研究課題名 逸脱を吸収する社会実現に向けたコミュニケーションギャップ生成 - 解消機構の解明

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1 0 4 5 4 1 4 1	フリガナ エノモト,ミカ 榎本,美香	メディア学部	助教

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 4 2 4 3 1 0	フリガナ オカモト,マサシ 岡本,雅史	片柳研究所	客員准教授
4 0 3 8 1 4 2 0	フリガナ ヤマカワ,ユコ 山川,百合子	茨城県立医療大学・保健健康学部	講師
7 0 2 1 4 9 4 7	フリガナ クシダ,シュウヤ 串田,秀也	大阪教育大学・教育学部	教授
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字~800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究の狙いは、高次脳機能障害や精神障害、学習障害などの病名が与えられた人々(the Communication Handicapped; 以下 CH) が世間から分離されることなく、周囲の人々と自然なコミュニケーションができる社会の実現にある。その足掛りとして、本研究では、CHの逸脱行動を単にCH個人「内」の病理と捉えるのではなく、周囲の人々との個人「間」にある問題として捉えなおすという課題を提案する。そして、これに際し逸脱の発生から解消までの会話上のトラブルをコミュニケーションギャップと規定する。本課題の研究期間内の目標は、会話の成員が個々に持つ社会的・個人的属性や会話の個々の構成物(発話や身振り)の相互作用が作り出すコミュニケーションシステムにおいて、コミュニケーションギャップが検出され、排除/吸収されていく過程のメカニズムを解明することである。本年度は、この目的を達成するため、以下のデータを収集した。

(1) 二人会話データ：精神科医による面接場面の会話(8組分各30分)

(2) 三人会話データ：看護師による訪問看護場面の会話(2組分各60分)

統合失調症患者どうしのお茶会場面の会話(2組分各60分)

統合失調症患者どうしのサイコロを用いた自由会話(31組分各30分)

高次脳機能障害者を含むサイコロを用いた自由会話(23組分各30分)

(3) 四人会話データ：統合失調症患者を含む自由会話(2組分各90分)

成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4判縦長横書1枚)を添付すること。

10. キーワード

- (1) コミュニケーション (2) 逸脱 (3) 統合失調症
- (4) 高次脳機能障害 (5) メタ認知 (6) 認知障害
- (7) インタラクション (8) 会話分析

(裏面に続く)

11.研究発表（平成 20 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（ 8 ）件

著者名	論文標題			
山川百合子・橋本明子・武島玲子・佐藤晋爾	精神科関連における救急車搬送の調査の分析			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
茨城県立病院医学雑誌	有	26	2008	(印刷中)

著者名	論文標題			
伝康晴・小磯花絵・丸山岳彦・前川喜久雄・高梨克也・榎本美香・吉田奈央	対話研究にふさわしい発話単位の認定に向けて			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会研究会資料	無	SIG-SLUD-A802	2008	pp.27-32

著者名	論文標題			
高梨克也・榎本美香・伝康晴・片桐恭弘	多人数合意形成会話における提案セグメントに応じた聞き手応答の変化の分析			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会研究会資料	無	SIG-SLUD-A802	2008	pp.39-44

著者名	論文標題			
石崎雅人・高梨克也・榎本美香・伝康晴	多人数会話における談話構造と視線配布パターンとの関係について			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会研究会資料	無	SIG-SLUD-A802	2008	pp.45-50

著者名	論文標題			
松岡恵子・小谷泉・山里道彦・金吉晴	外傷性脳損傷者における自発話の特性について Thought, Language, and Communication尺度による検討。			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
高次脳機能研究	無	29巻1号	2008	pp.85-86

著者名	論文標題			
山川百合子	脳卒中後うつ病とは			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
ナーシング・フロンティア / 脳卒中後うつ病の診療とケア看護技術	無	2	2009	pp.65-68

著者名	論文標題			
山川百合子	大学生のメンタルヘルス支援についての一考察～中国の大学への海外派遣研修から～			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
均衡生活学	有	5	2009	pp.13-17

著者名	論文標題			
伝康晴・小磯花絵・丸山岳彦・前川喜久雄・高梨克也・榎本美香・吉田奈央	対話研究にふさわしい発話単位の提案とその評価(1)～短い単位～			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会研究会資料	無	SIG-SLUD-A803	2009	pp.75-80

〔学会発表〕計(7)件

発表者名	発表標題		
小谷泉・松岡恵子・山里道彦・金吉晴	外傷性脳損傷者の談話評価について		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第11回 認知神経心理学研究会	2008年10月13日	早稲田大学	

発表者名	発表標題		
清水京美・安部伊知朗・和田野安良・山川百合子	風景構成法による脊髄損傷患者の障害受容の心理的プロセス		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第43回 日本脊髄障害医学会	2008年11月7日	かでの2.7(北海道立道民活動センター)	

発表者名	発表標題		
松岡恵子・小谷泉・山里道彦・金吉晴	外傷性脳損傷のインタビューにおける障害への自己言及について		
学会等名	発表年月日	発表場所	
電子情報通信学会 HCG第3種研究会ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会 第3回VNV年次大会	2009年3月23日	島根大学松江キャンパス	

発表者名	発表標題		
山川百合子	精神障害者のコミュニケーションの場をとらえる - 地域リハビリテーションの視点から -		
学会等名	発表年月日	発表場所	
電子情報通信学会 HCG第3種研究会ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会 第3回VNV年次大会	2009年3月23日	島根大学松江キャンパス	

発表者名	発表標題		
松嶋健	フランコ・バザーリア、メルロ＝ポンティの可能性の実践的展開としての		
学会等名	発表年月日	発表場所	
多文化間精神医学会 第16回学術大会(ワークショップ「メルロ＝ポンティ生誕100年 精神医療とメルロ＝ポンティの制度概念をめぐって」)	2009年3月27日	川崎市産業振興会館	

発表者名	発表標題		
榎本美香・伝康晴	会話が途切れるとき 3人会話における沈黙の分析		
学会等名	発表年月日	発表場所	
社会言語科学会 第23回大会	2009年3月28日	東京外国語大学	

発表者名	発表標題		
串田秀也	精神科デイケア面接場面における「気になる」こと		
学会等名	発表年月日	発表場所	
エスノメソドロジー・会話分析研究会 2008年度例会 口頭発表	2009年3月30日	明治学院大学	

〔図書〕 計(2)件

著者名	出版社		
山川百合子・編著：岸敬矩・土澤健一	医学出版社		
書名	発行年	総ページ数	
「保健・医療・福祉系学生のための臨床精神医学」 2章 精神障害の基礎知識、3章精神科治療の基礎知識、3.1生物学的治療	2008	pp.51-97 , pp.113-125	

著者名	出版社		
榎本美香	ひつじ書房		
書名	発行年	総ページ数	
日本語における聞き手の話者移行適格場の認知メカニズム	2009	pp.170	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

<http://www.dcgp.info/performance.html>